

## 菜・食わずの祭り

## たつの市揖保川町

今から、およそ千二百年の昔、真言宗という仏教をひらかれた弘法大師が、国々を行脚されました。

ある年の十月、このお方が、神部神社（揖保川町北山にある）のお祭りの日、そばを通られました。

道ばたの小川の流れに、一人の婦人が菜を洗っているのをごらんになり、「その菜をわけてください。」

と乞われました。ところが婦人は、これを惜しみ、

「これには毒があつて、食べられません。」  
とことわりました。

さて、このことがあつてから、神部神社の秋祭り（毎年十月の第二午の日に行われる）に野菜を食べた者は、たちまち腹いたを起し、七転八倒の苦しみにあうということです。

「菜を食べたら罰があたる。」

「菜を惜しんだので神さまのお怒りだ。」

「なんで食べたらかんのや？」

今にいたるまで、このあたりでは、この日だけは野菜を食べません。菜・食わずの祭りがつづいています。

野菜と腹いたの関係は、はっきりしていませんが、ここ神部神社の祭神はお二人あります。大国主命と少名彦名命で、古事記（わが国で一番古い歴史書）によれば、少名彦名命は、医薬、まじないの方法を始められたお方で、大国主命（大黒さま）に力をあわせて、国土をおさめられた。とあります。

「腹いた」は、食べてはいけないという神さまのお告げでしょうか。あるいはお怒りでしょうか。

